

学級活動「学校の安全に気をつけよう」指導案

高原町立広原小学校

指導者 東 篤志

1 ねらい

- 校内の施設の様子を見学することにより、事故の起きやすい場所、危険な箇所についての理解を深める。
- 遊具などの正しい使い方を理解することで、使用時の事故防止を図る。

2 指導にあたって

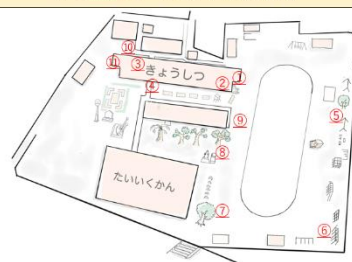
- 本校は、全校児童 45 名の小規模校である。昼休みなどは、屋外で過ごす児童も多いが、鉄棒や、滑り台、ブランコなどの遊具を好んで使用する児童が多い。校内の怪我については、走っていて運動場の樹木の根に足を取られ怪我をする児童が数名いる程度で、それほど多くない。しかし、遊具を含め、校舎はかなり古く、以前、同じ敷地での建物の立て替えなどもあったため、校舎内や外において注意を要する場所がある。怪我をしそうな場所については、学級担任で、その都度指導を行っているが、児童の安全意識を高めるため、児童自身による安全点検を行っている。令和 4 年度は、異学年の児童による縦割り班を編成し、グループ毎に校内の安全点検を実施した。そして、グループ毎に出された危険箇所について、保健安全委員会の児童が中心となって安全マップを作成し、全校児童に安全を呼びかける取組を行った。しかし、異学年の縦割り班での活動であったため、どうしても高学年を中心とした活動となり、中・低学年の児童にとっての主体性は反映されていないことが反省として挙げられた。そこで、令和 5 年度は、5・6 年生が、校内外の安全点検を行い、危険だと思われる箇所をいくつか取り上げ、その場所について気をつけなければいけないところを中学年、下学年の児童に考えてもらうような形に変更して実施することにした。

10月に5・6年生の授業を行った。校内の危険箇所について2人1組で、教室・廊下・運動場などを見て回り、危険だと思うところ、気をつけた方がいい場所について調べ、タブレットで写真撮影を行った。そして、授業の後半、それぞれのグループで写真を見せながら気付いたことについて情報を交換した。授業後、児童が見つけた危険箇所の中で、中・低学年にも知らせた方がよい場所、12カ所を選定した。選定した場所はよくわかるように、パワーポイントで地図に整理し、リンクを貼り、写真で確認できるようにした。



【5・6年の調査の様子】

ひろ こと あんぜんてんけん
広っ子安全点検

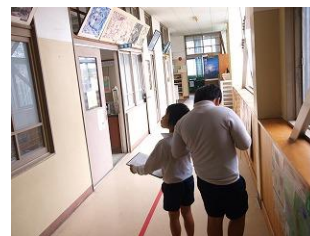


【パワーポイントで作成した図】

本学級（2年）は、男子6名の学級である。児童はお互い仲良く過ごすことができ、昼休みは外で過ごすことを好む児童が多い。指導にあたっては、学校内で起こる事故や怪我について、なぜおこるのか、危険な場所を知っておくことで、安全に過ごせることを確認させる。5・6年生が安全点検をして気付いたところを実際にペアで見て回ることで、どうして、そこが危険なのか、何に気をつけたらよいのか考えさせていくことを通して、安全に対する意識を高めていきたい。

3 指導の流れ

| 学習の流れ | 留意事項 |
|---|---|
| 1 本時学習のめあてを確認する。 | |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> けがをしないようにするために、学校のしせつをてんけんしよう。 </div> | |
| 2 5・6年生の安全点検の様子を見る。 | ○ 5・6年生が校内の安全点検を行い、危険だと思った場所を調べ、本時は、その場所を見に行き、何に気をつけなければいけないか考えることを知らせる。 |
| 3 学校での事故やけがについて話し合う。 ○ どんなどころで事故や怪我があるのか話し合う。 | ○ 事故や怪我の原因には、環境面（施設面）と行動面（使い方、気持ちの状態）が関係していることについて知らせる。 |
| 4 調査の仕方についての話を聞き、調査を行う。 ○ 調べる方法について理解する。 ○ ペアで調査を行う。 ・危険箇所の場所に行く ・何が、どうしたら危険なのかを考えワークシートに記入する。 | ○ 屋内の場所については、考えてほしい場所についてはQRコードを掲示しているのでそれを読み取って話し合うことを知らせる。 ○ 全ての箇所を回るのは時間が足りないため、分担して調査を行うことを知らせる。 |
| 5 調べたことについて話し合う。 ○ 調べた場所について発表する。 | ○ パワーポイントで整理したデータを使って、場所と、気をつけることについて確認していく。 |



| | |
|-----------------------------|--|
| <p>6 遊具の使い方などについての話を聞く。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ ブランコ、雲梯、サッカーゴールの事故の例を示し、何に気をつけなければいけないのかについて話し合わせる。 ○ フォームズを活用し、本時の学習をして気付いたこと、再度、危険箇所についての理解ができていたかの確認を行う。 |
| <p>7 本時の学習についてふりかえる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ ゲーグルフォームで回答する。 |

4 授業を終えて

○ 児童と教員の視点の違い

5・6年生に安全点検を実施させたところ、屋外では木の根っこや、地面の上にある障害物などを危険箇所としてあげてきた。職員も、月1回、施設の安全点検を行っているが、子どもと視点が違っているのには驚いた。実際、運動場での怪我は、すべったり、木の根などにひっかかったりして怪我をするのがほとんどであった。



【児童が見つけた危険箇所】

屋内で、危険箇所として選んだところの中には、音楽室の棚を挙げていたところがあった。引き戸の前の部分がささくれている、手にささることがあるというのが理由であった。指摘した児童は以前この場所でけがをしたことがあるとのことだった。

○ ペアによる調査活動について

1年生については、指導者が、児童全員と一緒に危険箇所を回りながら、どこが危険なのか、何に気をつけらよいか考えさせるようにしたが、2年については、ペアで活動を行った。屋内の危険箇所については、場所の指示が難しいため、QRコードを印刷した用紙を掲示し、それをタブレットで読み込ませることで、課題について考えさせることができた。



【QRコードの掲示物】

○ 調べたことについて話し合う活動について

危険箇所について、パワーポイントで作成した図を提示しながら、危険箇所について何に気をつけなければいけないか話合った。図のような場合は、発表する児童によって意見が分かれてくる。どれが正解なのかではなく、イメージしている状況によって異なってくるので、話し合いの中で様々な意見が出され、状況について説明することにな

り、よりねらいに迫る活動となった。

○ 遊具の使い方についての説明

ここでは、学校にある遊具の危険性・使い方について説明した。ぶらんこ、サッカーゴール、雲梯についての事故例を紹介し、正しい使い方について説明を行った。資料については文部科学省のホームページを参考にした。



【QRコード読み取って出てきた画面】

5 終わりに

「生きる力」を育む学校での安全教育（文科省）によると、学校安全の意義として、『生きる力』を育むことを目指す学校教育の目標を着実に実現していくためには、学校における組織的な安全管理の一層の充実を図ることや、安全で安心な学校施設等を整備するとともに、児童生徒等がいかなる状況下でも自らの命を守り抜き、安全で安心な生活や社会を実現するために主体的に行動する態度を育成する安全教育を一層推進することが不可欠である。」と書かれてある。学校施設の安全な整備のため、職員で安全点検を行っているが、今回は児童による安全点検を実施した。この結果から、職員では気付かなかったことも点検結果として上がってきた。また、安全点検を行う際、児童が主体的に活動できるようにするために、ペアでの調査活動を取り入れてみた。全学年で実践を行ったが、実施後の児童の意識調査では2年生と同様の結果となったことから、全ての学級がこの安全点検を行ったことで、児童の安全意識は高まったともいえる。

今後は、通学路の点検や、避難訓練などにおいても、児童の視点や、主体性が発揮されるような手立てがとれるよう計画を工夫していきたい。

6 参考文献

- 「生きる力」を育む学校での安全教育（文科省）
- 文部科学省ホームページ